



所内 第2回写真コンクール入選作 「晩秋の妙高高原」 燃料部石油課 石和田 靖章

静かに横たわりわれわれの調査の手を待っているのである。

最近の石油化学の波はこの自然そのままの高原地帯にも押寄せ、1954年の秋いらい地震探鉱の発破音が鈍く響き、ハンマーを手にした地質技術者が谷間を縫って歩くようになった。そうしてこれらの総合調査の結果、新しく背斜構造が発見され現在では1,000mをはるかにこえる試掘工事が石油系天然ガスを求めて実施されている。

### 晩秋の妙高高原

11月の妙高山麓はドロンリした空模様の下、山頂は既に雪景色となっていて、夏のにぎわいと冬のスキーシーズンとの間は静寂そのものである。  
しかし、この山麓地帯の地下には褶曲した第三紀層が

写真は関山西方の枯すすきのなびく高原地帯を、地質調査のため足取りも軽くなだの深く切れこんだ沢を日ざして登つてゆくところである。  
・・・今日もまた巨大な自然の恵みを捜しださんことを心に秘めて・・・



### 核原料資源課の新設について

最近非常に重要となつてきた放射性鉍物資源の調査を目的として、昭和31年7月1日付で鉍床部に核原料資源課が新設された。

既に昭和29年度から地質調査所では新しく放射性鉍物資源の調査を行つてきたが、30年度・31年度と加速度的に調査事業の量が増大し、従来、その仕事を行つていた鉍床部金属課第4調査研究室の発展的解消と共に課として発足したのである。

従来、鉍物学的見地から日本の各地の放射性鉍物についての研究が行われてきたが、最近はとくに原子力の平和利用が世界的に進んできたので、わが国においてもその原料であるウラン・トリウムなどの鉍物資源の組織的調査を早急に行わねばならない情勢となつた。

このような気運のもとに生れた核原料資源課は次の3調査研究室からなつている。

- 第1調査研究室：主としてペグマタイト鉍床に伴う放射性鉍物資源の調査研究
- 第2調査研究室：主として金属鉍床に伴う放射性鉍物資源の調査研究

### 第3調査研究室：主として上記鉍石の研究

これらの調査研究を行うにはガイガー計数器等の野外調査用具、その他特に室内での鉍物分離ならびに鉍物同定の諸設備を整備することが必要であり、今後の育成については、各大学・研究所・会社等の地質・鉍物・化学・物理等の専門家各位のみならず、広く皆様の御援助と御指導をお願いする次第である。

### ◇◇地質調査所月報◇◇ (第7巻 第6号)

#### 報 文

- 蔵田 延男・森 和雄・尾崎 次男：静岡県岳南地域工業用水源地域調査報告  
〔東海地域調査 第8報〕
- 水野 篤行：貝化石による九州北西部古第三系の分帯  
〔予報〕本邦古第三系の対比論のために
- 浜地 忠男・堀内 恵彦：岐阜県苗木地方ウラン調査報告〔その1苗木町ロクガホツタ地区〕

#### 概 報

- 林 昇一郎：徳島県由岐水銀鉍山水銀鉍床調査報告

訂正 No. 27 9頁の「中央線沿線の地史」表の中の誤植を次の通り訂正します。

|     |     |
|-----|-----|
| 誤   | 正   |
| 中世代 | 中生代 |
| 古世代 | 古生代 |

お願い 本誌添付の「調査カード」に所要事項御記入の上御投函下さるようお願いいたします  
この調査カードは新年度からの編集計画や配布先の移動・部数の増減などの資料として保管するものです 広 報 係